

県立高校で実施されている生活環境保全林整備事業

青森県立五所川原農林高等学校 ○ 3年 對馬 祥二
" 3年 奈良 有祐
" 3年 渡邊 文哉
" 教諭 奈良岡 隆樹
青森県北地方農林水産事務所 主査 三浦 文徳

1 はじめに

青森県立五所川原農林高等学校
(写真1)は明治35年に設立され、
昨年、平成14年度に創立百周年を
迎えた歴史と伝統のある農業高校で
ある。学科は現在、農業科、生物工
学科、食品化学科、生活科学科、農
業土木科、林業科の6学科を有し、
卒業生は17,000名を越える。本校
は県の西部、青森県の穀倉地帯とい
われる津軽平野の中央部にあり、津
軽平野は世界遺産の白神山地を水源

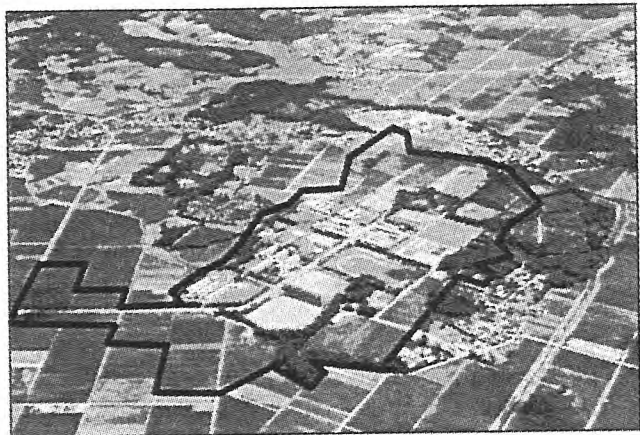


写真-1

とする岩木川を有する流域である。主な産業は稲作のほかに平野周辺部の丘陵を活用し
たりんご生産を主とした農業が盛んで、本校の背後に位置する津軽山地では、日本三大
美林の一つであり、県木にも指定されているヒバを生産する林業も盛んな場所である。
このような環境にある本校では、平成14年度から生活環境保全林整備事業が実施され
ている。この事業への本校の取り組みについて紹介する。

2 本校の自然環境と活用

津軽平野一帯は冬になると日
本海側からの強い季節風により、
この地域特有の強烈な地吹雪が
吹き付ける。ひどい場合には
1m 先も見えないという状況も
年に数回見られる。本校地内
においても同様で、特に正門から
の直線道路、通称五農街道
400m (写真2)は防風ネット
が設置されているものの、地吹
雪の時にはほとんど効果がない
状態である。この場所を生徒約



写真-2

700名は毎日登下校している。また正門から裏門までの道路は地域住民の生活道にもな

っており、一般住民が自由に往行する道路でもある。このままでは校地内で交通事故が発生する危険性も考えられる。幸い校地内で地吹雪に伴う交通事故は発生していないものの、正門から出た直後の県道で、この10年間に地吹雪による視界不良の影響で生徒が巻き込まれる交通事故が数件発生している。



写真-3

このような厳しい自然環境の反面、約60haの校地内には豊かな

自然環境もたくさん残されている。特に林業科で管理する見本林内には種の保存法、環境省絶滅危惧Ⅱ類、青森県重要希少野生生物等に指定されているオオタカ（写真3）の営巣が確認されているほか、フクロウやカワセミなどの鳥類、ミクリ、サイハイラン、ジンヨウイチヤクソウ、ミズチドリなどの貴重な植物のほか、タヌキ、イタチ、ノウサギなどの哺乳類も自由にかけて回っているという状況である。校地内のほぼ中央には中道池という農業用貯水池があり、そこではチョウトンボやショウジョウトンボなどレッドリストに名を連ねるトンボ類も数多く観察されている。また校地に隣接して農業用貯水池が2箇所あり、周辺自然環境の多様性をさらに高めている。これらの生物は農業科、生物工学科、林業科の課題研究等による授業や自然科学部による調査でリストアップされ、また森林の活用と管理は林業科の実習によって行われている。これまでに確認されている植物種は約240種、野生哺乳類は12種、魚類7種、鳥類38種、昆虫類でトンボの仲間が24種などである。

またこのような豊かな自然は小中学校の総合的学習（写真4）へも大いに活用されている。平成14年度の本校へ訪問した学校等の団体は40団体を超え、訪問者数は約1000名になり、その多くが本校の農場や自然を活用している。また一般の方々を対象にした公開講座も開設され、年間のべ200名ほどが来校している。本校最大のイベント



写真-4

とも言える秋の五農祭には約2000名もの方々が本校を訪れる。その他にも校地内の森林にはカブトムシやクワガタ等の昆虫が飛来する樹木も多数あり、地域の子供たちが自由に昆虫採集をしたり、近隣の保育園や幼稚園の児童も日常的に自由に本校地を散歩コースにしているという状況である。本校には森林インストラクターや自然観察指導員、

ビオトープ管理士などの有資格者もおり、学校の授業はもちろん外部の方々への自然観察指導も十分に対応できると考えている。

しかし近年、本校の自然環境はニセアカシヤの繁殖により倒木の被害や在来植物の被圧箇所が多く見られるようになり、里山環境が徐々に悪化しつつある。また隣接の貯水池にはウシガエルやブラックバスの繁殖が観察され、今後の環境悪化が心配される。

3 事業計画への参加

これまでの校内の自然環境調査データや小中学生等に対する本校の開放実績は、この事業採択へ大きくプラスにはたっていると考えている。またこのような豊かな自然環境を有する本校をさらに地域のために活用していただき、また今まで以上に自然環境を保全し、周辺自然との生物ネットワークを高め、そして森林の防災機能をできるだけ発揮させることを目的に、こ



写真-5

この事業によって整備していただくことになった。保全林整備事業計画を進めるに当たり、できるだけ多くの方々の意見を取り入れることを考えた。保全林計画地は校地 60ha のうち約 8ha であり、大きく 6 地区に分かれている。それぞれの地区の名称や植栽樹種や整備内容等についてのアンケート調査を 3 学年生徒全員とその保護者の 440 名、および本校教職員あわせ約 550 名に実施した。またその調査結果とコンサルタントの原案をもとに、事業計画のためのワークショップ（写真 5）を 3 回実施した。1 回目は全体像について、2 回目は水辺環境について、3 回目は建築物についてである。1、2 回目のワークショップ参加者は学校の代表として生徒会、農業クラブ、自然科学部の生徒代表と教職員合わせて約 20 名と担当の県農林水産部職員とコンサルタントの方々である。全員が 3 つの班に分かれ計画地の踏査を行い、意見を出し合うような形で進められた。ほとんどの参加者がワークショップに参加した経験がなく、最初のうちはなかなか意見が出されなかったが、時間が経つにつれ活発に意見が出されるようになってきた。とにかく出される意見は否定することなくすべて列挙していくことにした。さらに第 2 回目のワークショップでは、各班の代

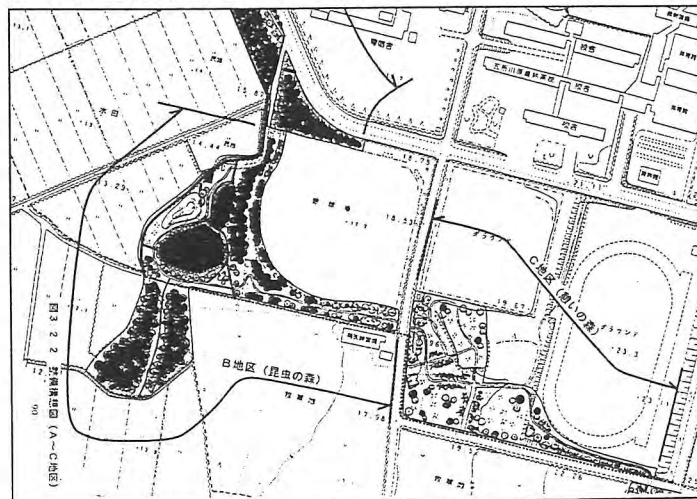


図-1

表として生徒がそれぞれの班で出された意見をまとめて、黒板や模造紙を用い説明を行った。その結果を元に「昆虫の森」の平面図（図1）を作成した。変化に富んだ、完成が待ち遠しくなるような内容が含まれている。

4 今後の活用と維持管理

本校の保全林整備事業は今年度で2年目に入っている。一部の完成区域（写真6）についてはすでに本校生徒により活用され、ゴミ拾い等維持管理が行われている。また休日や早朝には地域の方々もすでに散歩に訪れている。防風林機能の学習のために看板も設置された。今後も徐々に事業は進められていくと思うが、森林の維持管理については青森県では唯一本校に設置されている林業科の生徒実習により、これまでの学校環境整備と同様に進められていく予定である。また農業高校であるため専門の教職員もおり、その先生を先頭に全職員によって維持管理は行われる。

本校は水田や果樹園、畜舎や食品化工場も備えており、保全林の整備により今後さらに学校開放が進むものと考えられる。地域の方々の参加による自然観察会がさらに多くなると考えられ、維持管理のためのワークショップも開催される予定である。そして保全林のある学校として、できるならば地域の環境教育の拠点となり、本校関係者だけではなく、すべての住民に愛されるような学校にしていきたいと考えている。

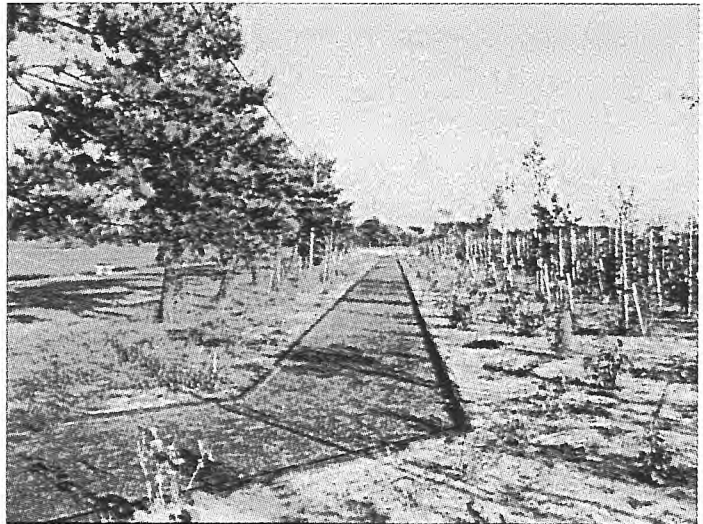


写真-6

最後に本研究を進めるにあたり、多くのご指導ご助言をいただいた関係各位にこの場を借りて深く感謝を表する次第である。